

安積中学校（今の安積高等学校）・東京専門学校（今の早稲田大学）では、苦学を続けながらいつも成績は一番だったと言われています。その後アメリカに留学するとともに、日本人として初めて博士号をうけ、エール大学の教授になりました。また、世界的に有名な歴史の本を書きあげました。

貫一はこの世を去るまでアメリカに住んでいましたが、日本を思い続け、日本がアメリカと戦争をしないように努力しました。

く ぼ い の きち
久保 猪之吉
(1874~1939)

二本松藩士の子供として生まれ、耳鼻咽喉科の名医として有名です。小学校時代は背中にいつも小さな弟を背負い、手には英語の本と紙切れ、そして短くなった鉛筆を持ち歩いていたと言われています。

福島中学（今の福島高校）に入学してからは、家から20キロメートルもある福島まで歩いて通いました。午前三時半には起きてご飯を自分で炊き、弁当を作って午前五時には家をでなければなりませんでした。

その後、苦学をして東京帝国大学（今の東京大学）を卒業しました。さらに、ドイツに留学して勉強に励み、九州帝国大学（今の九州大学）の教授になりました。

耳鼻咽喉科の進歩に役立つ重要な資料を数多く残し、学問への愛着と情熱は生涯変わることがありませんでした。

たか はし しん じ
高橋 信次
(1912~1985)

二本松市亀谷に生まれ、エックス線断層撮影技術の開発者として有名です。

信次は、安達中学校（今の安達高校）で学び、東北帝国大学（今の東北大学）医学部を優秀な成績で卒業しました。

小学生のころは大きな土蔵の中で、小学生にしてはかなり程度の高い本を読んでいた。中学生のころは、あまりめだちませんでしたが、勉強に一生懸命取り組むとともに、柔道部に入り熱心に練習に励みました。

大学卒業後は専門の勉強に打ち込み、エックス線によって人体の横断面や断面を作りました。これを組合わせて観察することによって、ほとんど人体を解剖したときに近い所見を出すことができるようになりました。

この研究は現在のコンピュータ断層撮影法のもとになっており、病気の治療にも大変役に立っています。のちには浜松医科大学付属病院院長までつとめました。

昭和59年に文化勲章を授与され、二本松市の名誉市民でもありました。